

小山・住宅建材設計のエマール

17年末、マザーズ上場へ

ベトナムに工場新設計画

住宅建材設計・製造などのエマール（小山市犬塚1丁目、早坂秀樹社長）は2017年末をめどに、東京証券取引所マザーズへ上場を目指す。上場時に調達する資金を活用し、18年にもベトナム南部のホーチミン近郊に窓枠のサッシなど住宅建材を製造する工場を建設する方針だ。すでに新日本監査法人と契約し上場に向けた準備を進めているほか、主幹事はSMBC日興証券とすることを決めている。

（根津知広）

同社は05年にホーチミンに住宅建材の設計を手掛ける子会社エマールベトナムを設立。安価な労働力を生かし、日本国内の大手メーカーなどから設計の注文を受けている。近隣に製造工場を設けることで、設計から製造まで自社で行う体制を構築する。

工場の従業員は300、500人規模になる見込みで、日系企業だけでなく、ベトナムの地元企業からの受注も目指す。軌道に乗れば将来的にはベトナム北部の首都ハノイ、中部のダナンへの工場建設も視野に入

れる。

ベトナムでは経済成長に伴い家庭用エアコンが普及し始め、今後、ペアガラスなどの需要拡大が見込めるという。いち早く生産体制を築くことで、需要の取り込みを図る。上場時に調達する資金によりホーチミンの工場建設のほか、建物の配電盤や産業用ロボットを製造する愛知県安城市の自社工場の整備も進める。

同社は14年1月に、上場に向けた取り組みを本格的に開始した。早坂社長は「上場に向けて社内体制を整備することで、会社の質の向

上にもつながる」と期待する。

同社は1999年に人材

派遣業として設立。その後、住宅建材の設計・製造、工場内の廃材リサイクルなど事業を拡大してきた。グループ全体の14年6月期の売

上高は25億円。上場に向け、15年から決算期を3月に変更する。17年3月期は売上高50億円を見込む。